

公益社団法人日本技術士会鹿児島県支部

第 48 回 CPD 講演会（九州本部 CPD・建設系 CPD 登録済）

- (1) 14:00~15:30 九州本部 2511012801A1-1
『高速道路における溪流災害への対応について』
川原田 圭介氏（西日本高速道路（株）九州支社鹿児島高速道路事務所副所長,
技術士（建設部門）・博士（芸術工学））
- (2) 15:40~17:10 九州本部 2511012802A1-1
『潮流が歴史を動かした！最新の数値モデルで挑む真相解明
～ なぜ、平家が負け、武蔵が遅れ、長州藩が敗れたか ～』
西井 康浩氏（西井技術士事務所 代表, 西日本工業大学総合防災研究所客員教授,
技術士（建設／CPD 認定／フェロー）, 博士（工学））

日 時：2025 年 11 月 1 日（土） **14:00~17:10**（途中休憩 10 分）

会 場：鹿児島市勤労者交流センター 7F 第 1 会議室
（よかセンター：JR 鹿児島中央駅前）

会 費：日本技術士会会員 1,000 円
非会員 1,500 円
大学生・高専課程生 無料

CPD 単位：3.0 単位

定 員：50 名（先着順） ※事前予約者のみ参加できます。
：20 名（オンライン：鹿児島市以外に居住する会員。県外会員も可）

※参加確定者には、10 月 27 日（月）に参加案内及び注意事項をメール配信

オンライン配信については、都合により中止する場合があります。

申し込み締め切り 10 月 24 日（金）正午

※申込定員に達した時点で募集を締め切ります。

【 第 48 回 CPD 講演会等申込み先 URL 】

<https://forms.gle/1YHkHtq536aPmmqU7>



受講証明書について

※受講証明書は、すべての講演を受講された方にのみ発行します。

本 CPD 講演会は、【 建設系 CPD 協議会 】認定プログラムです。

※他学協会の受講証明書を希望の方は、申込みフォームに

【 申請者情報：会員番号 】を入力してください。

意見交換会

日 時：17:30～19:30

場 所：後日ご連絡予定

対 象：会員

会 費：5,000 円程度

備 考：参加者には、追って案内させていただきます。

参加希望の会員は、上記申込フォームからお願いします。

次ページに【講演概要】があります。

以上。

講演概要

■講演（１）

講演タイトル：「高速道路における溪流災害への対応について」

講師：川原田 圭介氏（西日本高速道路（株）九州支社鹿児島高速道路事務所副所長、
技術士（建設部門）、博士（芸術工学））

講演概要：

高速道路は、能登半島地震の事例でも注目されたように、災害発生時においても被災地域が復旧に係るレジリエンス機能を発揮するため、高い安全性を維持することが求められます。九州地方は、暖候期の降雨量が多く、台風の襲来も多いため、常日頃から道路構造物の点検を行い、排水溝の清掃等の維持管理を定期的に行っています。それでも近年は、気候変動による災害激甚化により、災害が多発しており、高速道路に隣接する山林の溪流内から発生した土石流が高速道路本線に到達する事象も起こっています。

本講演では、令和５年７月に発生した、九州北部豪雨災害等の事例を基に、被災状況ならびに復旧工事の概要を紹介します。

キーワード： 土石流、溪流災害、高速道路、のり面、復旧工事

■講演（２）

講演タイトル：「潮流が歴史を動かした！最新の数値モデルで挑む真相解明

～ なぜ、平家が負け、武蔵が遅れ、長州藩が敗れたか ～」

講師：西井 康浩氏（西井技術士事務所 代表、西日本工業大学 総合防災研究所 客員教授、
技術士（建設／CPD 認定／フェロー）、博士（工学））

講演概要：

関門海峡は、古来よりたびたび主要な歴史イベントに登場する地政学的に極めて重要な地点である。また北前船航路の拠点としても栄え、朝鮮半島や中国大陸の玄関口、本州と九州の結節点、日本海と瀬戸内海をつなぐ海上交通の要衝でもある。自然条件面では、海峡最狭部は幅 630m、最深部は水深 47m、潮流は大潮期で最大 10 ノットを超えることもある。関門海峡の複雑な潮流は、この海峡で繰り広げられた数々の歴史イベントに深く関与し、様々な歴史考証において、潮流がそのイベントの結末に何らかの影響を及ぼしていたとの評価を受けてきた。

本講演は最新の数値モデルを使い、この海峡で繰り広げられた代表的な三つの歴史イベントについて、潮流の影響を再評価したものである。そこで古文書にある史実と潮流の影響について、工学的アプローチの観点から歴史検証を試み、史実と潮流の関係について再評価した。ここでは、最新の海洋数値モデル・FVCOM (Finite Volume Coastal Ocean Model) による予測が歴史の再評価にも応用できることを示したものである。

キーワード： 関門海峡、潮流、FVCOM、壇ノ浦の戦い、巖流島の決闘、下関戦争